

『琅』二十七号への手紙

宗内 敦 様

拝復

琅27号拝受。ありがとうございます。早速一読しました。牛村さんと大兄の原稿大いに勉強になりました。ますます健筆ですね。ラベリング、副作用、共に重大な問題提起です。大兄の結論、大いにうなずきました。バランスが大事なのでですね。カギは調和にあります。

良いお正月を祈っています。

11・10 吉村久夫

宗内先生 ご無沙汰しております。

「もうちょっと、がんばれそうです」

直筆による一言を添えてくださり、とても嬉しく思っております。季節の変わり目や、気候が不安定な時、自分が体調を崩し

た時など、先生はお元気だろうか？と、よく思います。ですから、前向きなひと言大変嬉しく思いました。

今号は、カラー写真が入っているのですね！裏表紙には、粹ですね、小さく「琅」の文字が！！とても素敵です。

じっくり読んで、後日感想を…といつも書きながら、気がつくと、次号をいただいている…という年月が繰り返され、自分の怠惰を思い反省しております。反省して…終わってしまうのですが（汗）。「琅」は、その読者の方も、質が高く、寄せられたお便りに目を通すだけでも、世の中の勉強になります。

お嬢様、ご活躍なのですね。すごいです。

こちらは、中古の戸建に引っ越し、穏やかに暮らしております。庭の草取りや、花を植えたりが、癒してくれます。家族も緑に癒され、主人も子ども伸びのびと生活しています。「家は何でもいい」と思っていました。心地良い家は、家族にゆとりを与えてくれますね。

何事もご縁です。家にめぐり会えたご縁、先生と今もこうして繋がりを持たせていただいているご縁を幸せに思います。やはり、都合をつけて、先生に会いに行きます！ご覚悟を（笑）

久しぶりなので、メールアドレスが不確かですが、届きますように。

11・10 金子祐子

宗内 敦 様

拝復 「琅」二十七号を拝受し、早速、評

壇二編を拝読しました。

警咳に接したことがある筆者の文は、何となく身近に感じられ、頭に入りやすいと思います。牛村圭氏は、曾て東京裁判についての著書で、重厚で確然とした見解を披露されたという印象をもっていますが、この雑誌にお書きの第壹編目の内容も、大変読み応えのあるものであり、多くの方に読んでいただきたいと思いました。ラベリングは、まさに漱石に至言の如く、多くの人

々を誤解の方向に連れていくものです。最終行の書かれた「ラベリングをこえて史実」に向きあおうとする姿勢が、より深い歴史 学びを可能にしてくれる。云々」はあらゆる事柄に通ずる牛村至言であり、あなたはどうするのかを問われているかのよう感じました。

第貳編目の宗内氏の文は、宗内氏の人と成りの凄みを感じました。宗内氏の体調不良は聞いていましたが、薬害であるとは知りませんでした。己を第三者として調べる冷静さの大切さが滲み出ています。小柴昌俊氏の愛弟子である戸塚洋二氏は、死を前にして、己の病状を克明に記していたことを想起しました。本旨の「教育・しつけ・指導における副作用」には教育の大切な要諦が書かれていると思います。物事には色即是空が纏わりついていて、どこを中庸とすべきか、そこが問題であることを実感しました。貴殿の文を読んで、貴殿の脳の若々しさを今もって保持されていることを知り、「琅」は安泰なりと思えました。それに

ひきかえ、私は日々脳の退行を実感し、退行を止める方策なきやと無駄な抵抗をしています。

世界中の生命科学の学者から、将来を嘱望されていた理研の研究者が自ずから命を絶つてしまいました。人類にとつて大いなる損失だと思えます。マスコミは人々の耳目を翫て、中庸を外れたラベリングをしがちです。彼の死も、マスコミによるラベリングの作用の弊害ではないかと思つています。

数日前に友人と、ポツカリあの世に往くのがよいと話をしていましたら、遭された者の気持ちを考えていないゾと言われ、ほどこほどにお別れを互いに暗黙の裡に知り合うのがよしと諭されました。

以上御礼に代えて、雑な感想まで。お健やかに「琅」をお続けくださるよう期しています。 不 一

2014・11・10 日江井榮二郎
宗内 敦様

お世話になります。この度は「琅」No. 27、有り難うございます。

早速、「過ぎたるは・・・」を拝読させて頂きました。何事も、バランスが大切だ、と語っておられるのだと思います。本当にそうだと思います。そうすれば、悲しい事象は起こらないのでは、と思えます。心理学者としての専門的な知見は、深く心で共鳴しております。有り難うございます。

ところで、「過ぎたるは・・・」ですが、この格言は、個人的に大切に行っている言葉の一つであり、子供たちに折に触れ語ってきた言葉の一つでもあります。宗内先生のご自分の体を実験台にして、薬の調整をしておられる貴重なデータは、私も深く感銘いたしました。健康と薬に関しまして、少し、個人的な体験を記述させて頂き、宗内先生と共有できましたら、幸いです。

もう数年前になりますが、出勤途中、狭心症で心臓が極度に締め付けられ、そのまま死ぬのではないかと思うほどでした。その後、東京医科大学八王子医療センターへ

行きますと、長い時間待たされたあと、医師からカテーテルの手術を提案されました。しかし、私はそれを受けませんでした。この手術は抜本的な改善にはならないと思っただけです。一時的によくなり、薬を処方し、やがて薬付となり、症状が悪化して更に大きな手術になるかもしれない・・と思っただけです。薬を処方されましたが、積極的には服用しませんでした。薬づけと副作用を恐れたからです。そこで、家内の助けを得て、登山で新鮮な空気（オゾン）

は殺菌作用があります）を取り込み、体内の毒素を排出し、血流を良くして、体内の健康状態を根本的に改善しようと思ひ実践いたしました。とはいえ、いきなりの登山は困難です。当初は、小仏峠から始めました。数歩歩くと息が切れ、数分休み、また数歩・・という状態でした。待つことには何の抵抗のない家内ですが、さすがに待ちくたびれた・・といっていました。そして、数か月後、体調は劇的に改善され、狭心症は今も再発していませんし、その兆候もありません。

この私の体験は、かつてある雑誌に掲載されていた、或る中年女性（確かち代）の方が、がんを告知され、余命数か月と宣告された時、登山を始めることにより、がんは消滅し、その後、10年以上も元気に活躍している、という記事が基底にありました。この記事が私の頭の片隅にすっかりと書き込まれていましたので、自分が同様な事態になったとき同じ行動がとれたのだと思います。

宗内先生の処方薬の体験談をお読みしているうちに、ふとこのことが思い浮かび、一筆書かせて頂きました。お読みくださり有り難うございます。

それでは、温暖化とはいえ、寒さが体を委縮させる季節となりました。御身大切にお祈り申し上げます。有り難うございました。

11・11 津久井修司

宗内先生、こんばんは。

「琅」第27号を送っていただきまして、どうもありがとうございます。Eメールでのお礼、失礼ですが、すぐにお伝えしたくて送信します。

前号から半年、「もう新刊が届いた！」と驚き、そして、とても嬉しく思いました。

先生ご自身の体験である、薬の副作用のお話し、読んで「怖い」と思いました。病気になった時、薬による回復の効果があると、薬を飲まないという選択はなかなかできないくなりますね。風邪のような一過性のものなら、一時服薬すれば良いですが、慢性疾患のようなもの、そして、心臓や糖尿病や高血圧等、飲み続けないと「命にかかわるかも（？）」と思うような薬だと、飲まないという選択はたぶん、怖くて出来なくなると思います。先生はご自身で薬の副作用に気づかれ、不要な服薬を止めることができ良かったですね。これからもお大事になさってください。

ところで、薬の話ですが、「教育・しつけ・指導における副作用」の話題は、子ど

も二人を持つ身としては「喝」をいれられた思いで読みました。「子ども達のため」と言いながら、自分の気持ちを押し付けていないか? 「勉強しなさい。」は言わない、と心がけてはいるものの、同居する義父母から私自身がよく思われたいばかりに、子ども達にきちんとさせようという気持ちは強かったと思います。直接そう言わなくても、「良い子にしてね。お行儀よくしてね。」という母(私)の思いは子ども達に接する時の態度に現れていて、たぶん、息子たちはそれを察して行動してきたと思います。ある時そう気づいてからは、手綱を緩めるようにして来ましたが、これまた緩め過ぎ(??)の感があります。先生がおっしゃる極意、「過ぎたるは及ばざるが如し、何事もほどほどがよし」を読み、今更ながら反省する事しきりです。

我が息子は中3と中1。突き放せば拗ね、可愛がると少々迷惑そう、叱れば無言の反抗が返ってくるという感じです。心理学を学んだわりには、子育てになかなかうまく

反映させられず・・・悩みは尽きません。「何事もほどほどに!」と自分に言って脱力すれば、自分も気持ちに楽になり、子ども達に対して「ま、いいか」という思いで見守れそうです。やはり、宗内先生は私の「師」です。ありがとうございました。これからますます寒くなります。寒暖の差がお体に障りますので、どうぞお気を付けてお過ごしください。

11・11 中山京子

宗内 敦 先生

朝の通勤に駅までの道すがら、先日まで香っていた金木犀や稲刈りの後の乾き薫の香りがなくなっただけと思いきや、鼻腔に冷気が感じられる初冬の頃となりました。今朝の丹波三田市は、うつつすらと霜もおりておりました。先生におかれましては、お元気に過ご活躍のご様子に、嬉しさを感じております。『琅』2号をお送りくださり、ありがとうございます。通勤電車の車内で、読んでおります。

さて、知らぬこととは言え、『過ぎたるは及ばざるが如し、何事もほどほどがよし』を拝読し、治療のための投薬に思いもよらない健康への危機があることを知り、まさに、先生がその渦中にあられたことに驚いております。病に冒されると、医者を頼るのは現代では常識です。本人をはじめ家族の唯一の支えであるのは当然ですから、医者、患者やその家族の気持ちに寄り添う診察を望むところです。

5年前に父が危険な状況に置かれたときも、担当医の対応に大いなる疑問を感じたものですから、医者を目指す卒業生には、まず、相手の気持ちをおもんばかる細やかな気遣いや優しさが何より重要であること、医は仁術であることを説いてきました。幸い、大事にはいたらずに、父は、家に戻り、静かに療養生活を送っております。

結びで、先生がお書きの『ほどほど...』の4箇条は、私の学級経営や子育て、夫婦関係に相通するものがあり、「同感!」と思わず膝を打った次第です。若い先生方へ

のアドバイスなどもほどほどの感覚で接しようと思いましたが。

個人的なことですが、この秋、嬉しいことがありました。実は、初めて担任した6年生の子どもが父親になって、娘を母校に入学させてくれました。これだけであれば、ごく普通にある出来事なのですが……。

当時、この児童を担任したときは、前の担任から扱いの難しい子どもであることを引き継いでいました。勉強はできるが、粗暴なところがあり、悪さをしてもなかなかしっほをつかませないので、2年間は、懸命に向き合いました。私も若かったので、はげしい指導もあつたと思います。

受験の時期になり、志望校を決定するときに、親の考えと学校の指導が相容れず数回の面談を重ねるも平行線のままでした。『進学の指導は教師と親だけです』という禁を破り、本人に志望校の合

格の可能性が少ないことを告げてしまい、本人にシヨックを与えてしまったのです。結局受験をしたものの、良い結果は得られずに、卒業までの数日間は、荒れたままの気持ちで過ごし、そのまま送ってしまいました。

学校を去る前に、教卓の側面を蹴り破って行きましたので、私は、自分への戒めのために、ベニヤ板で修理して、この修理跡を見る度に「あの児童のように荒れた気持ちにはいけない。子ども達や保護者が満足する1年間を過ごさなければならぬ。」という思いを常に持つて日々の教壇に立ちました。

受験児の保護者面接の時に、「私は、小学校時代は、『ごんた』な子どもでしたが、先生方にはお世話になりました。今、親になって、娘を私の母校に入れたいと強く思うようになりました。」と笑顔で話し

てくれたのを見て涙腺が緩んでしまいました。当時は彼には、ほどほどの指導はできていませんでしたが、若さゆえの一生懸命さや真刻さは伝わったのではないかと27年の時を越えて爽やかな気持ちになりました。

毎日、しんどいことがたくさんありますが、こんな嬉しいことがあると、また、元気が頑張れる気持ちになります。

先生、最後までおつきあい下さつてありがとうございます。

時節柄、寒さは心臓には負担になります。くれぐれもご自愛下さい。

11・15 井口光児

宗内 敦 様

このたび「琅」27号を送付いただき誠にありがとうございました。「琅」は内容が豊富で読むのに時間がかかりますが、今回は初めから終りまで一気に読ませてもらいま

した。

牛村圭氏の「歴史認識に見るラベリング」は、含蓄のある内容でいろいろ参考になる点がありました。歴史認識というか史観のとらえ方が大事で、これは一生追求しても正しい結論はわからない(私にとって)は)と感じました。

宗内氏の「教育・しつけ・指導における副作用」は、副作用の意味するものがよくわかり面白く読ませてくれました。心理学という立場から指導の要諦を話していますが、五十年以上専門から離れた私でもよくわかる話でした。

上野一彦氏の「川柳」は、毎回面白く読ませてもらっています。今回の「ルンバON猫と夫が後を追う」の一句は、実は私の孫が小学一年生で、お掃除ロボット「ルンバ」で遊んでいるんです。その遊ぶ様子とダブって、また軽妙な語り口が面白く笑って読むことができました。

稲瀬隆氏の「アイパッド マイパッド」は、徒然なるままのいくつかのエッセイで

すが、内容に「コク」があり、感心するところが多々ありました。そのうちのひとつ

「死後の思い」で「無限の出会いと無限の死の上に今の自分がある」ということは。

「死者を死せりと思うかなかれ、生者あらん限り死者は行きん」ということはピンとくるものがありました

私たち、大学同級生二十五人のうち既に七人が亡くなっています。今回、小倉さんの悲報の連絡を受けましたが、私の頭の中では彼は生きています。自分の生きている限り意識からは消えないものと思います。多くの出会いは自分にとって貴重な財産となつていると思えました。

山本文子氏のもよやま話は、痛快な文章でした。一部の思い出話や二部の最近の話は八十五歳の年齢と思われるような若々しい文章でした。正直な一本気な人柄とおみうけしました。百済問題については何も勉強していないのでわかりません。民族問題については歴史観もあるし好悪感もあり、人によってさまざまな考え方、観方がある

と思いますので、こうだと言いきれないところがあると思えます。

宗内氏の「二言、三言・・・」は同感の部分が多く、集団的自衛権問題についても私も懸念をもっています。また、ラベリングについての見方も気をつけなければという思いがしました。社会がどういう方向に変わっていくか、今不安な時代に向かうのかも知れないという危惧もあります。そんな点に注目して一刀両断に論じてもらいたいと期待しています。

浦野裕司氏の「モンゴル紀行」は、毎回楽しく読ませてもらっています。モンゴルの生活の様子、自然があるのまま描写されているので、だんだんモンゴルに親しみをもつようになりました。

小説二題もすつと読めました。「皇月雨」は、病院内での患者と医療側のやりとりがうまく書けていると思いました。苦しいときの描写をもう少し入れたり、最後の締めのところをもう少しクリアにしたらな、と思いつながら読みました。

「マンガラゲ」は現代っ子の一部の話ですが、親子関係、若い一部の子の性意識など社会問題も一部入れてストーリーとしては一貫した小説になっていると思いました。ハッピーエンドが早くきすぎて短い小説となつてしまいましたが、「オール読物」などの市販の雑誌にも同様の小説がありますので、投稿して載せてもらうのも可能かなと思ひながら読みました。

新・二都物語は、今度はオーストラリアのパスなんです。外国の旅は、日本と変わった情景があつて読んでいて楽しいですね。引き続き面白い旅行記を続けて欲しいと思ひました。

うめながゆうじ氏の童話はテーマもあり教訓もあり、よい童話だと思います。機会をとらえて孫に読んでやりたいと思ひました。

以上乱筆乱文で失礼しました。

11・15 川合道朗

宗内 敦 様

前略 琅27号をお送り下さりありがとうございます。ございました。一気に読ませていただきました。共感したところ、認識を新たにしたいところなどには付箋をはつておいて本箱に納めていきます。私の苦手な冬が近づいてきました。貴兄もくれぐれも御自愛されませう。まずは御礼まで。

11・14 菊池明

宗内 敦 様

『琅』27号 有難く拝受いたしました。薬剤の「副作用」にさいなまれながら、ひたすら「書く」という行為に徹し、同人誌を仕上げるという先生の強靱な意欲と精神力には感心するばかりです。

しかも、ご自身を実験台にして薬効をいろいろ試されているのも、あくなき追究心のなせるわざ！ただパソコンと向き合つて画面の数字だけを信じてむやみに薬を投与する昨今の医師のあり方は、まさに口ポツト化しています。患者の病状や、苦痛をじっくりと聞き、問題個所を突き止めて最

高の処置を施すような、本来の医療を今こそ拡げてほしいと思ひます。今のままでは患者は高い治療費を払つて、製薬会社や病院の食い物にされている感じです。

また、安易で無責任な「ラベリング」がいかに危険きわまりない行為であるか、牛村氏や先生の丁寧なご指摘で実によく納得できました。歴史認識や心理学的分析に関して多くの新治見を得、学ばせて頂きました。どうも有難うございました。

いよいよ寒さがつづります。あまりつつ走り過ぎないで、十分ご自愛の上、「ほどほど」を保つてお進めください。

11・18 大久保廣行

宗内 敦 様

「琅」27号を拝受いたしました。これまで幾度となく手にさせていただいた「琅」の意味を知ることなく今日に至つていたことにふと気がきました。

果たして先生の想ひは、「美しき玉」なのか「美しき文」なのかといろいろと想ひを

巡らしています。

富山県の宮崎海岸は、新潟県の姫川から流れだした翡翠が打ち上げられることで有名ですが、かつて相馬御風氏が「沼名川の底なる玉 求めて得まし玉かも、拾ひて得し玉かも、惜(あたら)しき君が老ゆらく惜(を)しも(万葉集)をヒントに、地に翡翠(琅玕)が出るのではと考え、元の伊藤さんという古老に依頼して探した結果、ついに昭和十三年これを発見したといわれています。私も昭和四十年頃、この伊藤老にお会いし、当時の話を聞いたことを懐かしく思い起こしております。

古代の人々は「琅玕」に不老長寿の霊力を信じていたとのことですが、ご自愛の上益々のご健勝をお祈りします。

11・08 井上 亮二

宗内 敦 先生

『琅』27号を拝受いたしました。いつもいつも御礼申し上げるのが大変遅くなりまして、申し訳ありません。

今号も、26号から半年後のご発刊ですね。印刷所のご厚意もあつたとのこと、誠にとてもどうございます。

「評壇 歴史認識にみるラベリング・過ぎたるは及ばざるが如し、何事もほどほどがよし」 何度も拝読しました。家庭教師として、二人の息子の母として、ハツとさせられるところが随所にあり、立ち止まってしまうところがあり読み進めました。「合格請負人」として生徒たちを追いつめてはいなかったか。しつくと称して圧力的かつ感情的に子どもたちをpushしてはいなかったか・・・。

加害者となりうるその責任に、背筋が伸びる思いがしました。「ほどほど四力条」を肝に銘じて子どもたちに接していこうと決意しつつ、今日もまた「ほどほどに」叱れたのでしょうか???

「たかが川柳されど川柳」毎号楽しみにしています。

『この歌はあの想い出の栞です』 素敵ですね！胸がキュンとなったりじわつとなつ

たりします。そして運転中も思い返して、思い出の曲を歌ったりしています。

山本様のエッセイには、御歳が後からついてくるような情熱と熱気にあふれていますね。

今号は特に小説が面白く、一気に読ませて頂きました。

「曼荼羅華・マンダラゲ」はドキドキする展開で、ページをめくる手を自ら急かしながら読み進めました。また「見えないペンギンベンジャミン」のラストには私の涙の跡があります。

そして...171ページの上部にカラーピラミッドのピラミッド版デザインを見つけたよ 現在の私でしたらどんなチップを並べるのか、想像して楽しんでおりました。

それにしても、先生がご自分のお身体で「実験」なさったことにギョツといたしました。もし院外処方ホーム薬局をお持ちでしたら、そちらを活用なさることもひとつかもしれませんね。大事な、(わたくしにとりまして)お大切なお身体ですから、

琅

【誌友・同人規約】

『琅』の円滑な発刊といっそうの充実を図るため
誌友・同人を求めます。

【誌友規約】

資 格 特になし。
会 費 発行毎に1,000円（発行誌1部、送料込み）
原稿投稿・掲載費 1頁につき1,500円
（但し、掲載の諾否は編集部一任
発行誌配布 1部

【同人規約】

資 格 特になし（但し、これまでの作品を一
部お送りください）
同人費 なし
原稿掲載費
1～20ページ 1頁につき1,500円
21ページ以上
20頁まで 1頁につき1,500円
20頁を越える部分 1頁につき1,000円

発行誌配布

2部：但し、必要に応じ、印刷前に申し出た方
に限って下記のように無料配布する。

- ・執筆量10ページ以下の方 2部まで
- ・執筆量11～15ページの方 4部まで
- ・執筆量16～20ページの方 6部まで
- ・執筆量21～30ページの方 10部まで
- ・執筆量31ページ以上の方 15部まで

どうぞご無理をなさらないようお願い申
し上げます。
掲示板を拝見しましたが、御令孫様の御
病気に驚き、そしてご回復に安堵いたしま
した。宗内先生とご家族の皆様方が、毎日

どんな思いで過ごされたのか察するに
余りあります。これからも健やかにお育ち
なられますことを心よりお祈り申し上げ
ます。
今年の冬將軍は、ずいぶんと暴れん坊の

ようですね。暴君の悪政に屈しないよう、お
元氣にお過ごしくださいませ。

12・17 蓬田澄子